

「絵の詩人」

大野長一 絵画展



横山コレクション



大野長一(1908～1996・高知市五台山)教育者、洋画家



大野は1908年(明治41年)五台山に生まれる。歿年は1996年(平成8年)、享年87歳であった。県立保育専門学校長などを経て、最後には親のいない子どもたちの養護施設、夜須の愛童園の園長を長年勤め、その人柄から“土佐の良寛”とも呼ばれたが、必要にせまられて鏡川学園長時代の40歳代から子どもたちとともに絵筆をにぎりはじめる。

当初は友人に「こんな単純な絵は見たことがない」などと評されることもあったが、当時流行の強い色彩と迫力を追う「前衛芸術」などとは一線を画し、洋画の油絵としては珍しく繊細で柔らかく、しかも格調高い、いかにも日本的な「情緒の世界」を坦々として描き続ける。晩年にはその境地は冴えわたり、私に言わせればまさに「絵の詩人」である。

私、横山は大野が亡くなる3年前(1992年)に大野と出会い、教育者としての大野のカバン持ちをさせてもらうが、その間に催された2度の大野の絵画展でその絵の素晴らしさを知り、大野亡き後は千点とも言われる県内に散らばる大野の絵を捜し歩いてきたのである。

ここに展示してある絵はすべてその間に収集したものであるが、その他にもインターネット上の私のホームページ「数学者岡潔思想研究会」の挿絵としてふんだんに使わせてもらっている。

県内にはまだまだ数多くの大野の絵が眠っていることは確かだが、このような絵は県内はもちろん中央画壇でも実に珍しく、これからの土佐の、否日本の文化芸術の真の向上のためにも、当いずみの病院の夕部富三院長のご協力も得て、さらなる発掘を進めていきたいと考えている。そういう意味で、皆様方からの情報提供をお待ちしたい。

大野長一絵の会 横山賢二

2018年
3月15日(木)
↓
4月4日(水)

会場: いずみの病院 1階ロビー内特設会場